

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



8月のスタディツアーで訪れた天鎮県李二口村の万里の長城で草場へ急ぐヒツジたち。

Contents

- 津波被災地を訪問して P 2
- 冬期カンパのお願い P 3
- 2014 黄土高原スタディツアー日誌より P 4
- GEN 運営懇談会のご案内 P 6

2014.11
160

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



津波被災地で GEN にできること — 海岸林再生地を訪れて —

6月の第20回会員総会で、東北の津波被災地の海外林再生への協力を決めました。名取市のゆりりん愛護会の大橋信彦会長に案内してもらって、10月2日～4日の3日間、名取市と亙理町の苗圃と植林現場を、桜井尚武顧問、川島和義副代表と高見が見学させていただきました。

これまで仙台市荒浜地区(2013年)、名取市下増田地区(2014年)でクロマツなどの植林がなされています。林野庁などが盛り土をして造成した場所です。大がかりな防風柵も設置され、活着率は良好です。

来年度分の募集もまもなく始まりま



ゆりりん愛護会の大橋さん(右から2人目)



菌根菌を利用してマツの苗を育てる

す。白砂青松再生の会(小川真会長)と協力し、ゆりりん愛護会が実施する植林活動に参加させてもらおうと思います。来年5月、6月ごろに私たちも実際の植林活動に参加します。この機会に東北の被災地と改めて向き合い、復興・再生の状況を見守り、新しい動きに学びたいと思います。

ゆりりん愛護会の活動については、こちらをごらんください。

<http://www.yuriagehama.com/>

東北の会員の藤嶋茂さん、佐々木陽子さん、そして大同でもたいへんお世話になっている栗栖敏浩さんにご協力をいただきました。(高見)

JICA 理事長表彰 を受けました

国際協力機構(JICA)の理事長表彰を高見邦雄事務局長が受けました。2004年からほぼ10年間、大同で草の根技術協力事業を実施しており、その成果を認められたものです。

JICA中国事務所の推薦を受けました。中国事務所のみなさんは連休を利用して大同のプロジェクトを訪れるなど、私たちの事業を心から応援してくれました。

表彰式のあとの懇親会で田中明彦理事長から高見に「みなさんの事業は日中関係の歴史に残るものです」と過大な評価をいただきました。ありがたいことです。



③喜怒哀楽をためらわずに声、表情で示す

④男性よりも女性のほうが活発(強い?)

といったことを挙げられました。

また、中国人の日本に対する印象としては、一部では反日感情があるという噂は聞くものの会おう人はみな好意的で、特に同世代の学生ではアニメなど日本の文化に興味を持っている人が非常に多いとのことでした。

その頃日本でも話題になっていた大気汚染については、霧に覆われたようになる時期もあったが、綺麗な青空が見えるときも多かったとのことでした。

家の中にも山のように情報が入ってくる時代ですが、実際に現地に行ってみる体験することの大切さを改めて教えていただいた発表でした。

報告 体験することの大切さを知る

大原 一晃 (GEN 会員)

10月21日、大阪市立総合生涯学習センターで『日本の留学生が見た中国 中国留学報告会』をおこないました。15名が参加しました。

京都大学大学院農学研究科の修士課程で学ぶ鶴田惇さんが、昨年8月から1年間の中国留学を通して、日本人学生の視点から見たありのままの中国を語ってくれました。

鶴田さんが留学していたのは北京林



業大学。中国語や林業の勉強を本業としながら、春節に河北省の農村に滞在して餃子づくりを手伝ったり、高山病で気を失いつつもチベットまで鉄道で旅行し、チベット族の信仰心に感動したりと、非常に活動的な1年間を過ごされていたようです。

興味深かったのは出会った中国人の印象。

①親しき中に礼儀なし(友人との間に遠慮はない。ただ、相手のためにはすごく献身的)

②初対面の人の前でもおじおせせず堂々と話せる

冬期カンパのお願い

夏期カンパにたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。みなさんのあたたかい応援に心より感謝申し上げます。

日中関係の冷え込みが長期化し、GENの活動にも影響がでるなか、それでも応援して下さるかたがいるおかげでここまで事業を続けていくことができました。

現地で木を植え、守り育ててくれる大同の人たちや、困難なかそれを支える大同事務所のスタッフたちを思うと、ここまで続けてきた活動を無に帰さないために、もうひとふんばりしなければいけません。どうか冬期カンパのご協力をお願いいたします。

【緑化基金】

大同での緑化協力にあてます。金額は自由です。ちなみに、現在アブラマツの苗木は1本60円、アンズの苗木は1本100円です。アブラマツは1haに1,650本、アンズは1haに825本植えます。82,500円～99,000円で、1ha分の苗木を購入できます。

また、整地・植栽・1年間の管理費などを含めると、アブラマツ10aの造林が23,000円でできます。

なお、緑化基金の20%は事務管理費になります。

【運営資金】

事務所を運営するために必要な経費にあてます。金額は自由です。

【おまかせカンパ】

用途を指定しない寄付です。そのときで最も必要とされているところに

使わせていただきます。

GENへの寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業(法人)からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告時期以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税

の課税対象から除外されます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金、運営資金、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、2015年1月1日現在大阪市在住のかたで2014年中にGENに寄付をされたかたは大阪市税が控除されます。確定申告または市・府民税申告書提出が必要です。詳しくはGENまでお問い合わせください。

報告 夙川公園で気軽にキノコ観察

藤田 修二 (GEN 会員)

10月25日にGEN自然と親しむ会『秋のキノコを見に行こう』を夙川公園でおこないました。秋晴れの空の下、16名が参加してテングタケなどさまざまなキノコの観察を楽しみました。

「GEN自然と親しむ会」の例会が10月25日、兵庫県西宮市の夙川公園で開催されました。「秋のキノコを見に行こう」という趣旨です。講師は土壌微生物の研究者で樹木医でもある栗栖敏浩さん。

午前10時に阪急電鉄甲陽線苦楽園駅に参加者16人が集合し、夙川沿いの公園をぶらぶら南下して夙川駅近くまで1駅歩いて折り返し、また苦楽園駅まで戻るという手軽なコース。

夙川公園はサクラとクロマツの並木の名所で、いつも人が多く、川の土手で

すから土が比較的乾いています。「こんな所にキノコがあるのかなあ」と半信半疑で栗栖さんの後をついていく

と、結構あちこちに顔を出していました。クロマツとの共生菌、木材の腐朽菌、落葉分解菌の3種類だそうですが、テングタケの仲間のツルタケ、染色材料のコツブタケ、炊き込みご飯に使えるアカハツタケ、傘の色が美しいウラムラサキ、サクラの幹に取りつくコウヤクダマなど14種ほどを見つけました。中には極めて貴重な食用のキノコも生

えていましたが、大勢の人が殺到するといけなそうなのでここでは内証です。すみません。

気になったのは、サクラもクロマツもなんとなく元気がないこと。サクラは枯れかけているものが少なくなく、マツの緑も鮮やかさがありません。人の踏圧などが原因のようですが、栗栖さんら樹木医さんたちが土壌に炭や菌根菌を入れたり、マツクイムシが運ぶマツノザイセンチュウを殺すための樹幹注射をしたりして再生を図っているそうです。

昼食をはさんで約4時間、日頃はあまり身近でない野生のキノコを勉強する得難い機会をいただきました。



助成が決まりました

●日中緑化交流基金より、北京の水源・桑干河流域における緑化事業に800万円の助成が決まりました。

●国土緑化推進機構緑の募金公募事業より、黄土高原における森林再生事業に229万円の助成が決まりました。



地道な努力の成果を実感

2014 黄土高原スタディツアー日誌より

2014 黄土高原スタディツアー参加者の日誌より抜粋をご紹介します。立教大学・学習院大学のツアー参加者の感想もあわせて掲載します。



● 8月24日(日)

南天門自然植物園の入り口に到着したとき、先着のみなさんと「ニーハオ」と言いあっていたスタッフのひとりが目ざとく私を見つけ、近寄ってきて握手を求めた。彼の名前は知らなかったが一瞬で彼の顔を思い出した。2年前に私がここを訪れた折、植物の分類についてほとんど知識がなかった彼らが見事な標本を作成していることに対し、通訳をつうじて敬意を伝えたことがあった。私を覚えてくれたのはそのせいではないかと推定している。

私は他人と付き合ううえで大切なことは相手を尊重することではないかと思っている。とりわけ当地の人びとの場合は、平型関の戦いや劉庄村の悲劇などを聞くにつけ、そのことが大事になってくると思う。(大塩春治)

● 8月26日(火)

10時30分植林作業開始。中国人のかたとペアになってマツを植えることに。穴を掘ってもらって、私が苗をそなえつける。ビニールの下と上は水が吸収しやすいようにやぶってから土をかけてもらう。私は中国語がまったくできないけれど、おじさんと息があったような気がする。順調に植えつけていった。作業は40分ほどで終了。1本でも多く残りますように。(山口智夏)

● 8月28日(木)

昼食後、万人坑へ。事前知識なしでも、字を見れば大体どんなところかは想像がつく。戦中の炭鉱の痕だとまで

は分からなかったが。とにかく行って見るべきとしか言いようがない。言葉で説明できるものではないと思う。僕は鎮魂慰霊の祈りを捧げるので精一杯だった。写真を撮る藤原さんに「僕には撮れません」とつぶやいたら、「でも伝えないと(いけないでしょう)」と言われ

ました。累々たるものに退いてしまうだけでは、確かに伝えられない。こういったものをどうやって息子に伝えていくべきか、しばし悩んだ。まずは、機会があるごとにいろいろと見せていくことかと思う。夕食後、ホテルで軽く休憩してから、大同駅から夜行列車で北京へ。行きは開放3段寝台だったが、今度はコンパートメント形式の2段ベット。他の3つのベットはどうやら1家族のようで、お子さんがお父さんと一緒に寝ていたのが可愛かった。降りがけにパパさんに「お子さんへ」と残り物のあめ玉をプレゼント。言葉が分からないので身振りで伝えたが、分かってもらえたようでうれしかった。

(大澤健一)

● ツアー後に届いたはがきより

8月に黄土高原スタディツアーに参加させてもらってから、もう1ヵ月がたとうとしていますが、中国での体験はまだ頭から離れません。

植樹に関することはもちろん、中国のこと、他の参加者の方がたから聞いたこと、おいしい中華料理を食べたこと、あの7日間で僕はたくさんのことを体験し学ぶことができました。

なかでも一番心に残っていることは、スタッフをはじめ、現地の中国人がとても優しくしてくれたことです。このような体験をさせてくださった GEN の方がたにはとても感謝しています。

(外園晴樹)

立教・学習院大学ツアー 倉田 徹(立教大学)

初めての黄土高原は、拍子抜けするくらい緑に満ちていた。野山には草が茂り、アンズ園やトウモロコシ畑が広大な高原に果てしなく続く。これに羊飼いやロバの姿が重なると、何も知らずに初めて訪れた者は、豊かな大自然という言葉を想像するであろう。

しかし、20年ほど前のこの地の写真を見て、私はあまりに異なる姿に大変な衝撃を受けた。見渡す限りの荒れたはげ山から、緑化事業は始まったのだ。乾いた大地にはじかれながらスコップを力一杯さし込み続けて大きな穴を掘り、小さな弱々しい苗を丁寧に両手で植え、土をかぶせてからバケツに1杯の水をふんだんに与える…1本を植えるだけの作業も、水も酸素も少ない高原では大変な労働であった。これをただひたすら、何千回、何万回と繰り返す…私が今日にしている緑の風景は、想像を超える地道な努力の成果であったのだ。

そんな緑化は、中国北部の各地で展開されているのであろう。今回観光で訪れた雲崗の石窟や、北京の市街では、一昔前とは比べものにならないほど美しく緑化が進んでいた。荒涼とした風景に暮らす華北の人びとにとって、緑の中で暮らしたいという願いがいかに強いかを、至る所で感じさせられた。北陸で5年を過ごし、雪にとざされたモノクロの景色を見慣れた私には、黄土高原の人々が「冬でも緑が欲しい」と、マツの植樹を望んだ気持ちは非常によく分かる。それとともに、それに応えようと多くの人びとが積み重ねた GEN の努力にも思いを馳せた。

私が植えたわずかな苗木達は、立派に育つであろうか。必ず機会を見つけてまた訪ねてみたいと思った。



12年ぶりに訪れた大同

松永 光平(GEN 会員)

8月4日～7日の日程で松永光平さん(慶応大学大学院特任講師)と大塚健司さん(アジア経済研究所主任研究員)が大同を訪問しました。

「これがあの大同か!」
12年ぶりに訪れた私を、大同のすべてが暖かさをもって迎え入れてくれた。8月4日から7日まで、大同で GEN の活動の発展ぶりを満喫した。

まず8月4日。新設の緑の地球環境センターの苗圃を見学した。スプリンクラーのある苗圃では青あおと苗が育っていたが、今年の夏は8月4日(着いた日!)に初めて雨が降った。大同全体で水不足が厳しいらしい。おしい



いお昼ご飯と現地でとれたメロンをいただく。

8月5日は地球環境林とカササギの森。カササギの森は、2002年3月に春のツアーに参加して自分も植樹しただけに、思い出深い。今は見渡す限りの松、松、松。植樹したときは、たしか木はほとんどなかったはずなのに、一面の緑を前にして出る言葉は「すごい」の一言に尽きる。

8月6日は、金山寺の植林地と呉城村のアンズを見に行く。呉城村は高見さんの『ぼくらの村にアンズが実った』でも表紙を飾っている、かねてより行きたかった場所。今やアンズの加工場ができたり、農民專業合作社(中国の農協)ができて、アンズ栽培が産業として発展していることを村人から教えていただき、うれしかった。でも今年は収

初秋の黄土高原を満喫

富永 猛(大阪市 RR 厚生会)

8月29日～9月2日の日程で大阪市 RR 厚生会ツアー(4名)が大同を訪問しました。今年で4回目の派遣です。

8月29日 11時20分北京空港着。通訳が出迎え。大同市までは約370km。北京五輪関連で完成した高速道路で向かうが、集中豪雨による道路補修工事のため、八達嶺まで大渋滞。張家口、宣化を経て5時半ごろ大同市内着。緑の地球ネットワークの前中代表、高見事務局長、大同事務所武春珍所長らと夕食懇談。今年は例年よりも涼しいようだ。

8月30日 高粱・ヒマワリ畑の農村地帯を経て、大泉山村へ向かう。ここは、1955年毛沢東主席が「治山治水の造林」モデルと位置付けた環境林。村幹部の案内で緑化展示館や村を見学。現在の登録人口は約160人だが、居住人口は3分の1の高齢者・子どもで、若者たちは近郊都市へ出稼ぎ。午後、GEN の

緑化活動基地である緑の地球環境センター訪問。RR 厚生会の緑化記念碑の前で記念撮影。

8月31日 午前、緑化プロジェクトで植林した采涼山地球環境林、実験林場カササギの森を見学。その後、懸空寺、恒山の廟参拝。中国伝統宗教である道教寺院。さらに足を伸ばし大同市の南側に位置する朔州市の応県木塔参拝。ここは世界最古の木造建築で9重の塔。

9月1日 雲崗石窟見学。西暦400年代北魏時代の石窟。見学途中で集中豪雨に見舞われる。昼食後、山西省と内蒙古自治区の境界にある得勝堡へ向かう。万里の長城の城跡が残る、漢民族と蒙古族が争った地で、古来塩や茶の搬出基地の役割を果たした。今は羊

糞ゼロ。せっかくの加工場も動いていない。大寒波が急に5月に大同襲ったためという。すでに大寒波が来ることを知っていた農民たちも、備えようがなく、泣く泣く収穫なしの年を迎えることになったという。寒波対策に何か妙案があればなあと思う。

8月7日は、今回の訪問のハイライト、南天門植物園。正直、ここまで緑が濃いは思っていなかった。谷沿いに山を登り、緑の中にまぎれこむと、多様な植物が時間を忘れさせるまで豊かに生い茂る、楽園のような場所だった。でも、ここは大同。いまでも水不足と風沙に苦しむ人びともいる場所。こうした場所で、この植物園のような緑したたる楽園が味わえるのは、お金にかえがたい価値があると思った。防火管理も大変だと思いますが、事務局の方が多くの人びとをここに招いてくれたらいいなと思いました。

の放牧地で目前に内蒙古自治区を眺む。夕刻ホテルに帰り、大同市総工会主催の歓送晩餐会。10時33分大同発天津行きの夜行寝台列車に乗車。

9月2日 北京郊外黄村駅5時23分到着予定が雨のため3時間遅れて到着。専用車で北京市内へ移動し、天安門広場、故宮見学。北京空港を4時25分発、8時20分関西空港到着。今次ツアーは雨が多く、一部予定を変更せざるを得なかったが、有意義なツアーでした。



参加者募集

ご参加ください！ GEN 運営懇談会

GEN 運営懇談会を今年も東京と大阪でおこないます。

運営懇談会は GEN の今後の活動について忌憚のない議論を交わす場として 2009 年より続けています。

これまでの成果をふまえ、今後の方向性について会員有志のみなさんで意見を出しながらいっしょに考えていきましょう。

GEN 会員のかたはどなたでもご参加いただけます。初めてのかたも大歓迎です。みなさんの参加をお待ちしています。

【東京会場】

○日時：2015 年 1 月 10 日（土）15 時～17 時 30 分（13 時 30 分～14 時 50 分まで関東ランチ月例会をおこないます）

○会場：立教大学池袋キャンパス 12 号館 2 階円卓会議室（各線池袋駅西口から 7 分）

※終了後新年会をおこないます。新年会参加希望のかたは 12 月 20 日（土）までに上田信 (ueda@rikkyo.ac.jp) へお申し込みください。

【大阪会場】

○日時：2015 年 1 月 17 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分

○会場：大阪市立男女共同参画センター南部館（クレオ大阪南）（大阪市平野区喜連西 6-2-33 地下鉄「喜連瓜破」駅 1 番出口から北西へ徒歩 5 分）

○申込み：GEN 事務局まで

参加者募集

GEN 自然と親しむ会

無煙炭化器で炭焼き in 初谷溪谷

GEN 自然と親しむ会でもすっかり恒例となりました、無煙炭化器を使った炭焼きを今年もおこないます。

材料を入れるだけで簡単にできる炭焼きを体験してみませんか。

炭焼きをしながらの焼き芋はもちろん、できあがった炭を使ってバーベキューにも挑戦します。炭を囲んで楽しいひとときを過ごしましょう。

○日程：12 月 6 日（土）10 時～15 時ごろ

○場所：大阪府豊能町初谷溪谷

○集合：10 時に能勢電鉄「妙見口」駅
○参加費：500 円（保険料をふくむ）
○定員：20 名（先着順）

○持ち物：バーベキューの食材を各自持参、飲み物、敷物、食器（お皿、お椀、お箸など）作業のできる服装と靴、軍手、雨具、あればノコギリ

○申込み：12 月 3 日までに GEN 事務所へ氏名・年齢・連絡先をお知らせください。

※雨天の場合は中止

GEN 自然と親しむ会 今後の予定

GEN 自然と親しむ会の今後の予定をご案内します。

○2015 年 2 月 28 日（土）有馬富士公園ハイキング 冬の自然観察を楽しみましょう。

○2015 年 4 月 4 日（土）花見と渡し巡り大阪港（仮）サクラの季節、大阪港付近を散策します。

新しいリーフレット できました

GEN の新しいリーフレットができました。会報に同封しますので、GEN の活動を広げる一助にぜひご利用ください。追加をご希望のかたは GEN 事務局までご連絡ください。



緑の地球ネットワーク+中国環境問題研究会 日中環境協力について 語り、考える

長年にわたって中国の環境問題に取り組んでいる中国環境問題研究会と GEN との合同研究会を東京でおこないます。中国の各方面で活躍する方がたと日中環境協力について考えます。ぜひご参加ください。

○日時：11 月 29 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分

○会場：立教大学池袋キャンパス 12 号館 2 階会議室

○参加費：無料

○プログラム：第 1 部 GEN 関東ランチ「黄土高原スタディツアー」報告（高見邦雄さん、上田信さん）
第 2 部 第 28 回中国環境問題研究

会「草の根環境協力の現場からの報告」松永光平さん、大塚健司さん、相川泰さん）

第 3 部 総合討論 明日香壽川さん、片岡直樹さんほか参加者

○申込み：中国環境問題研究会事務局（e-mail: ck-icenter@googlegroups.com）までお名前、ご所属をお知らせください。

黄土高原史話<70>

桑乾河の名のルーツ

谷口 義介（GEN 会員）



今夏、黄土高原のスタディ・ツアーに参加されたのは、3 グループ、40 名。「やはり桑乾（干）河に水はなかった」と。

今回も、ひき続き桑乾河のお話しを。

これまで何度も引用した『水経注』の著者酈道元は、父の代からの地理学者で、各地の山川を跋涉し、大同（平城）を都とした北魏につかえた役人だから、特に桑乾河に関する記述には信頼が置ける。

その『水経注』巻 13 に桑乾河のことが書いてあり、累頭山麓の泉より発した灑水は、山間の峡谷をぬけて前漢の陰館県故城の西を巡り、さらに北東に

向かうが、そのあたりで左から「桑乾水」が合流してくる、とする。そして、この桑乾水は「桑乾泉」から流れ出すというが、灑水に合流するまえ、

桑乾水は源より東南流し、右に馬邑川水と合す。…その水（馬邑川水）は東して馬邑県故城の南を運る。…その水は東して桑乾水に注ぐ。桑乾水はまた東南流す。

このあと、桑乾水は「また東南して、右に灑水に合す」ことになる。

ここでいう「馬邑川水」というのは、今の地図で見ると管涔山の東麓に発する恢河のことで、「馬邑県」は今の朔州市にあたる。そして、朔州の東で恢

河に北西方向より合流してくるのは、洪涛山の西麓に源をひらく今の源子河だから、これが『水経注』のいう「桑乾水」に相当しよう。ちなみに、上述した灑水は今の黄河水であるらしく、地図によると応県の北西で桑乾河と合流している。

つまり、今いう桑乾河の支流である源子河を『水経注』は「桑乾水」とよんでいるわけだが、ではこの場合の「桑乾」という名はどこから出てきたのか。

じつは「桑乾水」について、『水経注』は「灑水」とも述べており、このコメントは看過できない。しかし、これをヒントに『光緒山西通志』巻 43 は、「灑水」は川の名だからサンズイがついているが、これは鮮卑語の「索干」で、部族の名にちがいない、と推測した。ちなみに酈道元は、前出の「馬邑川水」を「磨川」とも称したのは狄語つまり鮮卑語による訛音（なまり）である、と記している。

では、「桑乾」の語は鮮卑語の「索干」から出たとする説は正しいか。

『魏書』巻 2 には、「索干」に類似する「薛干部」、同巻 113 には「若干氏」「紇干氏」「叱干氏」などが見えるから、「索干」という部族（氏族）も鮮卑のなかに存在したと考えてよいだろう。そして彼ら「索干」部は今いう桑乾河の上游あたりに居住していたらしく、それによって北魏は先述した「桑乾水」と「灑水」の合流点の東、今の応県の西に「桑乾郡」を設置している。付言すると、北魏は鮮卑拓跋部が建てた王朝である。

つまり、『水経注』のいう「桑乾」水やその源流の「桑乾」泉、北魏が置いた「桑乾」郡は、もともと「索干」という部族名から出ており、彼らの住む「灑水」の流域内に含まれていた。桑乾河の名のルーツもここにある、とみるのは妥当な説ではなからうか。

ところが、北魏が進出するよりはるかまえの前漢時代、今の桑乾河の流域内の河北省北西部に「桑乾県」（『漢書』地理志下）というのがすでに存在している。ということは、桑乾河の名前のルーツは、むしろこの「桑乾県」の方にある可能性が俄然高くなる。

予告

2015 黄土高原 ワーキングツアー

春は植樹の季節。来年の春は黄土高原で木を植えますか。百聞は一見にしかず、中国の緑化の現場を知るツアーにぜひご参加ください。

○日程：2015 年 4 月 11 日（土）～17 日（金）6 泊 7 日

○訪問地：中国山西省大同市（北京経由）

○費用：一般 187,000 円 学生 157,000 円（関西空港発着、全日空利用）予定。変更になる場合があります。※燃油特別付加運賃等含む。GEN 年会費が別途必要

○定員：30 名程度

○最少催行人員：12 名

詳細は 1 月号でご案内します。



第21期自然大学
受講生募集中

室内講義7回、野外実習7回で構成される自然と環境を学び、考える市民大学です。

- 期間：2015年4月12日～2016年3月13日(全14回)
- 募集生徒数：50名(18歳以上、先着順)
- 受講料：35,000円(野外実習経費等別途)
- 申込み方法：氏名(ふりがな)、生年月日、性別、職業、住所、電話番号、FAX番号、趣味・特技、メールアドレスを明記の上下記までe-mail、FAX、郵送で。
- 主催・申込み先：NPO法人自然と緑(〒537-0025 大阪市東成区中道3-2-34 tel.06-6978-5060 fax.06-6978-5061 e-mail:sizen_mi@osb.att.ne.jp URL http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/)
- 日程(原則日曜日、一部他曜日あり)
4月12日/4月19日/5月17日/5月31日/6月14日/7月5日/8月2日/9月6日 or 9月13日/10月17日～18日/11月15日/12月13日/2016年1月17日/2月7日

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

or 2月14日/3月13日

- 講師：只木良也氏(自然大学学長、名古屋大学名誉教授)、小川眞氏(大阪工業大学客員教授)、伊藤孝美氏(自然大学教文部長) 渡辺弘之氏(京都大学名誉教授) ほか

ワン・ワールド・フェスティバル
for Youth
～高校生のための国際協力EXPO
2014 キックオフ大会～

- 高校生を対象とした国際協力イベントを大阪で開催します。
- 日時：12月26日(土)11時～17時
- 場所：大阪国際交流センター(地下鉄「谷町九丁目」駅、近鉄「大阪上本町」駅)
- 入場無料
- 問合せ・申込み：『ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～高校生のための国際交流・国際協力EXPOキックオフ大会～』実行委員会事務局(〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 4階 NPO法人関西NGO協議会内 担当：小寺 tel.06-6377-5144 fax.06-6377-5148 URL http://www.kansaingo.net/ e-mail:mizuyo.kodera@kansaingo.net)

おいしいポンカン
いかがですか

今年もおいしいポンカンができました。お歳暮に、贈答にどうぞ。

★甲浦ポンカン(低農薬・動物性有機肥料のみ使用)

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

A	2L/3L	5kg	30個前後	4,000円
B	2L/3L	3kg	20〃	2,600円
C	L	5kg	35〃	3,500円

【普通箱入り】

D	2L/3L	5kg	30〃	3,700円
E	2L/3L	3kg	20〃	2,300円
F	L	5kg	35〃	3,200円

【家庭用】

G	5kg	33〃	2,600円
ゆず酢	4合瓶	2本入り	4,000円

※出荷：12月10日～2月下旬

※送料別途。20kgまで関西650円、関東・甲信越860円。

★ご注文は

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 田中農園 田中隆一さん (tel./fax. 0887-29-2500 e-mail:tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。